

Impact Report

2026

～ 終活インフラがもたらす社会的インパクト ～



Table of Contents

Page 3~11

Introduction

CEOメッセージ / 社会課題に関わる認識

Page 12~19

Social Value Creation

鎌倉新書が実現したい社会と、その実現に向けたアプローチ

Page 20~25

Sustainable Operations

鎌倉新書のガバナンス / 人的資本経営 / その他

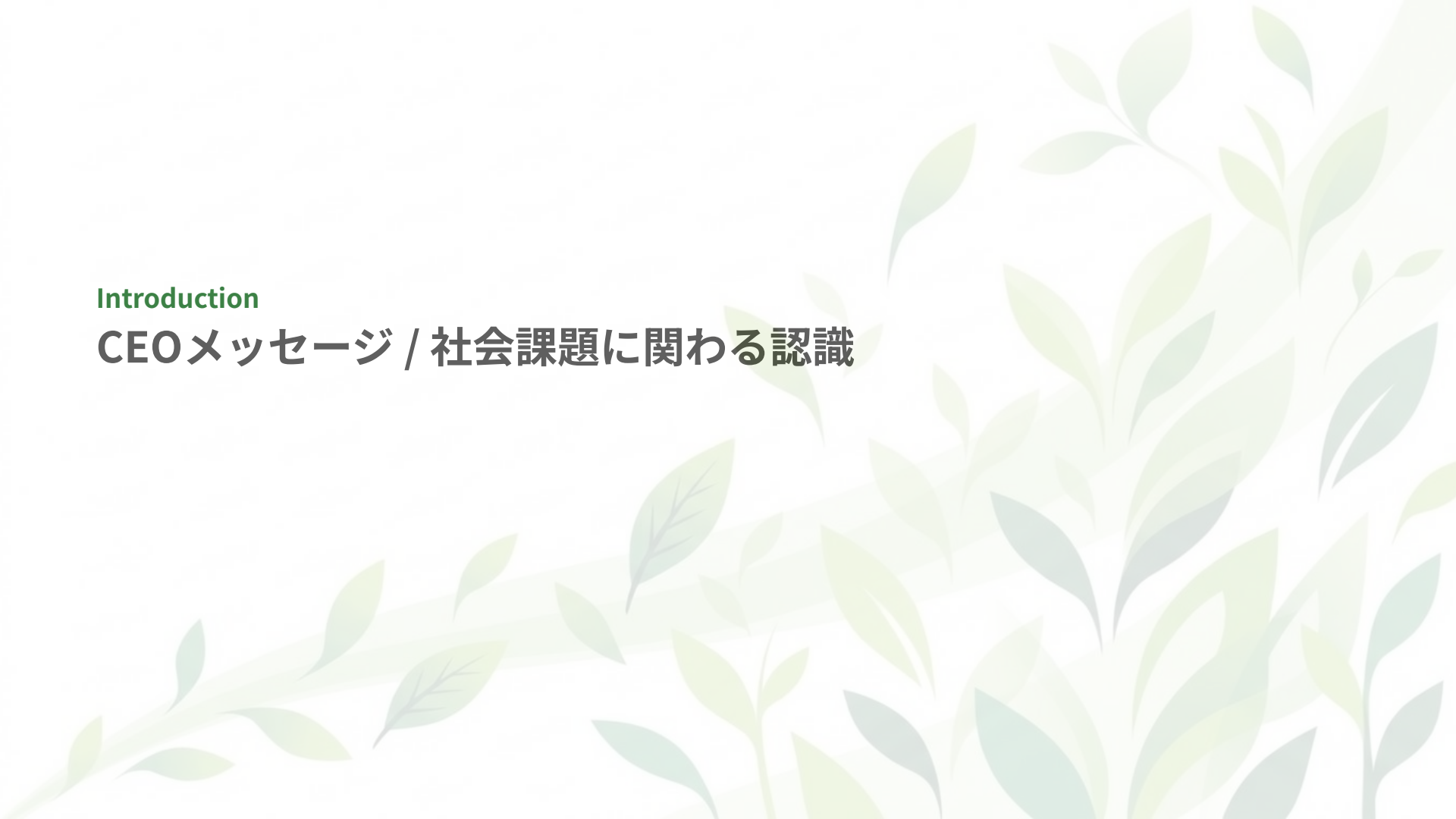
Page 26~27

Key Takeaways

総評と今後の課題について

Page 28~30

Appendix

A decorative graphic of stylized green leaves and branches, rendered in various shades of green, occupies the right side and bottom of the slide. The leaves are simple, elongated shapes with some internal vein details, and the branches are thin, curved lines. The overall style is clean and modern.

Introduction

CEOメッセージ / 社会課題に関わる認識

未曾有の高齢社会から生じる さまざまな課題の解決をミッションとして

わたしたちは、わが国の高齢社会がますます進展する中で生じるさまざまな問題や課題を解決し、また夢や希望の実現をお手伝いすることで、人びとが明るく前向きに生きるための社会基盤づくり(終活インフラの構築)をミッションとしています

「長寿化」「高齢者比率の高まり」「認知症の増加」「少子化」「都市部への人口集中」「単身世帯の増加」等々の社会変化は、わたしたちの生活にさまざまな課題を突き付けており、人々にこれまでに必要性がなかったたくさんのニーズを生み出しています

例えば長寿社会によって親を支える子どもがすでに高齢者というケースも当たり前となっています。都市化が進み、親と離れて住む子どもが増えていることや、少子化が進む中で頼る家族がいない単身世帯も激増しています。総じて「終活」に関わる課題解決を家族だけが担うことに無理が生じていることはもはや論を待ちません

そんな社会情勢の中で、家族に代わって信頼できる第三者が適切な情報の提供やサービスの提供を継続的に行っていく必要がある、というのがわたしたちの問題意識であり、企業としてのチャレンジであります

「終活」とは必ずやってくる終わりを意識することで、その手前の生を充実させることであるとわたしたちは考えています。わたしたちがこれらの領域に関しての情報やサービスの提供をしっかりと行うことによって、お客さまはそれぞれのニーズに対して適切な選択ができるようになるはずです(続く)



株式会社鎌倉新書
代表取締役会長CEO

清水 隆彦

ステークホルダーとの協働により 豊かな高齢社会の基盤をつくりあげる

そして、そのことは残された人生を明るく前向きに生きることにつながります。これは、まさによく生きること＝ウェルビーイングだとわたしたちは考えます。また、家族にとっても「人の縁や親に対する感謝」につながり、それを教訓に自らの人生をよりよく生きること(＝ウェルビーイング)につながる、そのように考えています

このようにわたしたちのミッション＝「終活インフラの構築」を推し進めることで、結果的に人びとのウェルビーイングが実現すると考えているのです。さらには、人びとが明るく前向きに生きるとは消費や投資を活発化させ、わが国の健全な社会の発展や経済の成長につながっていく、このことも重要なテーマととらえています



社会の発展や経済の成長は、できればこれからの若い世代に担っていただきたいところですが、少子化の進展、社会保障の負担増といった中で、人口動態上のボリュームゾーンであるシニア世代が一定の役割を果たしていくことが、わが国の社会や経済の処方箋であるとわたしたちは考えます

以上、わたしたちはミッションの実現＝社会の幸福と捉え事業を行っていますが、このことはわたしたちの力だけで到底実現できるものではありません。そこには、さまざまなステークホルダーとの協働がどうしても必要だと考え、そうしたメッセージを含め本レポートを作成しました

わたしたちは、お客さま、お取引先の皆さま、株主や投資家の皆さま、地域や社会の皆さま、公的機関等々との協力を通して社会課題の解決に取り組んでまいります

「終活インフラ」の構築を通じて、当社ミッションの実現を目指す

Mission

私たちは、明るく前向きな
社会を実現するため、
人々が悔いのない人生を
生きることのお手伝いをします

Vision

終活が当たり前になる、
その時だれもが鎌倉新書を
イメージ（想起）する

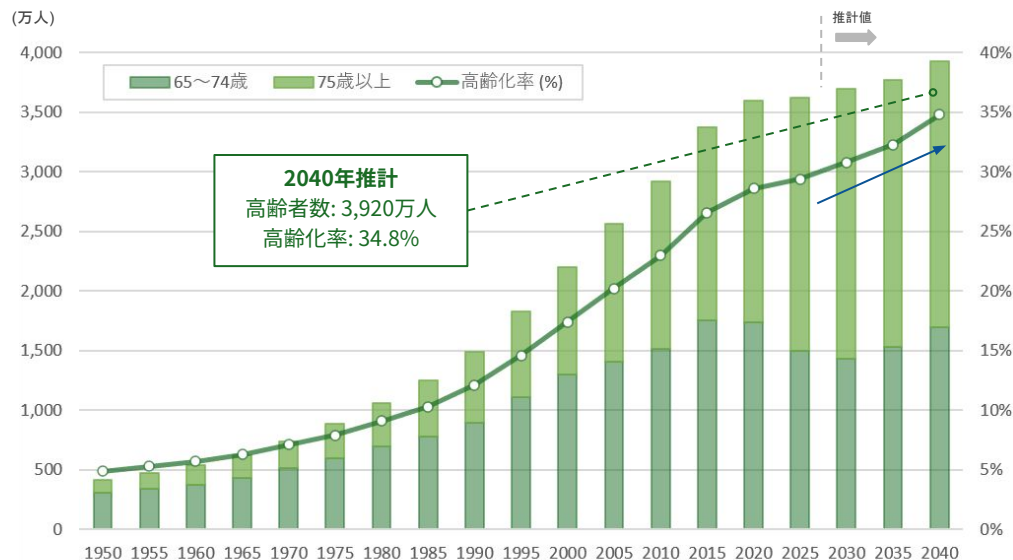
明るく前向きな社会の実現のため、私たちはまず、高齢社会を活性化していくことがみんなの希望につながると考えています
明るく前向きに生きる高齢者が増えれば、そのご家族、また次の世代の人たちも明るく前向きに生きることにつながります
高齢社会の中でこの夢を実現するのが鎌倉新書のミッションです

わたしたちは「終活インフラ」の構築を合言葉に企業活動を行っています

世界一進んだわが国の高齢社会がさらに進展していく中で、さまざまな社会課題が拡大の一途をたどっています
そのような社会課題の解決をお手伝いすることで、人びとが幸福な人生を生きる。このような社会を実現することが当社の役割であります

さらに進展する高齢社会、社会構造の変化を見据えて

高齢者人口の見通しと、社会構造の変化



高齢社会が進展し、**2040年には高齢者の人口は3,920万人に増加する見通し**です

人口動態の変動も進み、また**全人口に占める65歳以上の高齢者の割合は、同年に34.8%に達する見通し**です

長寿化・高齢化と相まって、**社会構造の変化**もかつてないスピードで進展しています

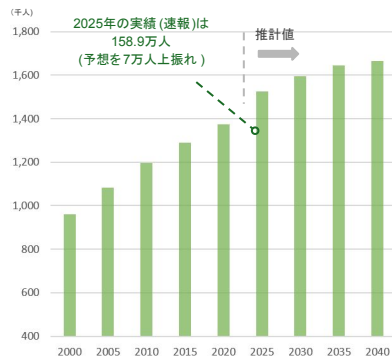
- 大家族からの核家族化
- 大都市圏への人口集中
- 単身世帯の増加

高齢化とライフスタイルの多様化が進む中、**それぞれに最適な意思決定が、しっかりサポートされる社会的仕組みの重要性が高まっています**

鎌倉新書が解決したい社会課題(続き)

高齢社会のさらなる進展により、終活関連のニーズが拡大する

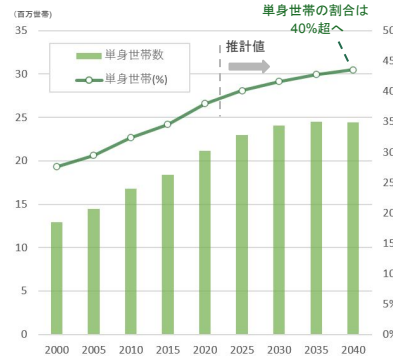
死亡者数



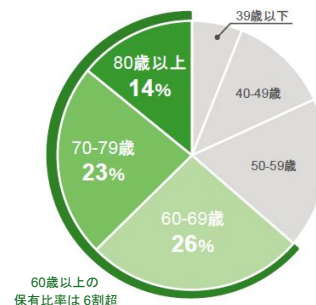
認知症患者



単身世帯



家計金融資産の分布



2025年には団塊の世代が後期高齢者になり、長期にわたり死亡者数は年々増えていくことが見込まれます。健康寿命の長期化が進展する一方で、認知症患者も含めた要介護の高齢者もますます増加する見通しです

生活様式の視点からは核家族化、大都市圏への人口集中、単身世帯の増加などが進むことで、地域・親族との継続的なつながりを前提としたシステムが失われつつあります。例えば檀家制度の崩壊、親に対する子供世代のサポート機能の喪失は、終活に関する新たなニーズの創出や多様化を生み出しています

高齢者が終活を通じて(=健康・金銭面や死後の不安の軽減に繋がる)、残りの人生を明るく前向きに生きていくことは、巡り巡って消費や投資を活発化させ、わが国の健全な社会・経済の発展につながると考えます

鎌倉新書が解決したい社会課題(続き)

終活に関連して、高齢者と家族が直面する社会課題

情報の非対称性

人生において知見・経験のない意思決定を、
短時間で迫られるケースが多い

お墓、葬儀、介護など、**各々の領域で多様な
選択肢がある**中で、十分な情報・判断基準を
有しない

例えばお墓・葬儀は、**クレームが発生**しやす
く問題になりやすい領域でもある

中立的な相談機会の不足

終活は葬儀・お墓・介護・相続・不動産・遺
品整理など、**複数の領域**にまたがる

ひとつの領域の専門家はいるが、多くは**事業
者の立場**からであり、ユーザー自身の判断が
必要

総じて中立的な立場から、全体を俯瞰して相
談できる相手・機会は限られている

手続き面・心理面での負担

終活において(生前、死後)「何をしたら良い
かわからない」こと自体が心理的負担

そんな中で死後はその直後から、行政(届
出、年金、税務)、葬儀・供養事業者、金
融、不動産など、**30~50のやるべきことが発
生**することが一般的に起こっている

負担は家族に集中し、公的なこと以外も自治
体への問い合わせという形で外部化されるこ
とも多い

コンテンツ提供

終活相談

自治体支援



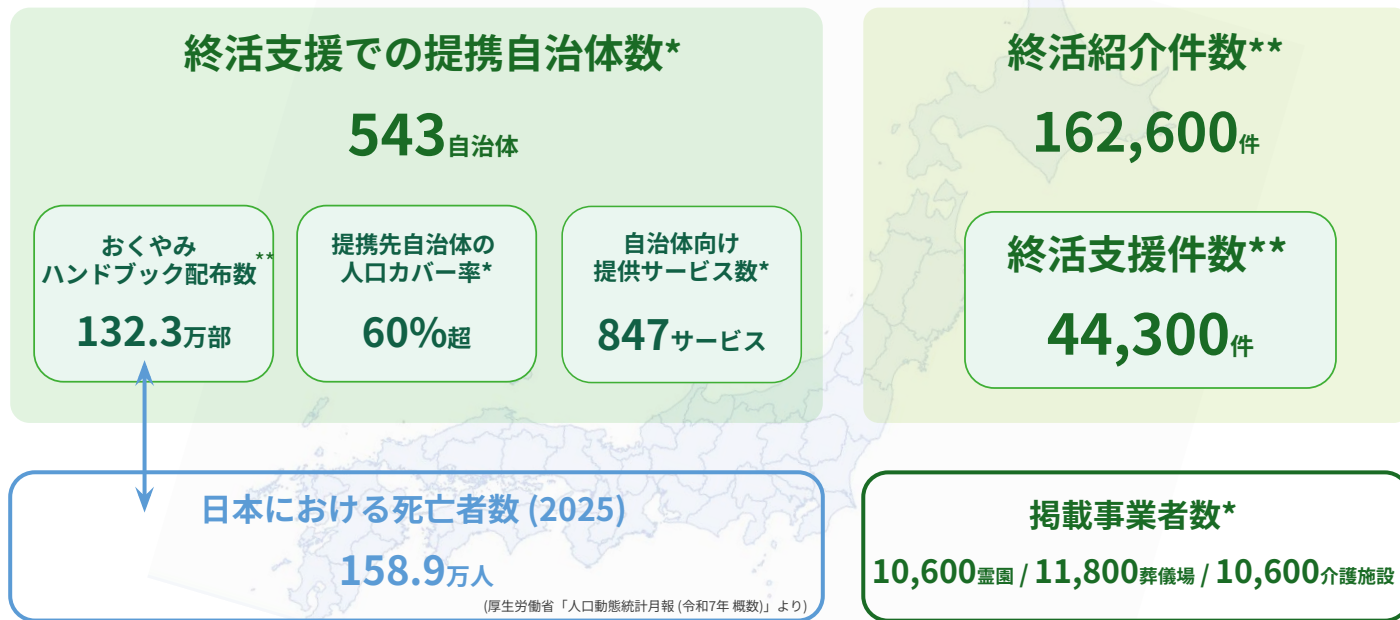
は社会課題に対して幅広くソリューションを提供

高齢社会における社会課題の解決そのものが、当社事業の根幹を形成する

社会的ニーズ

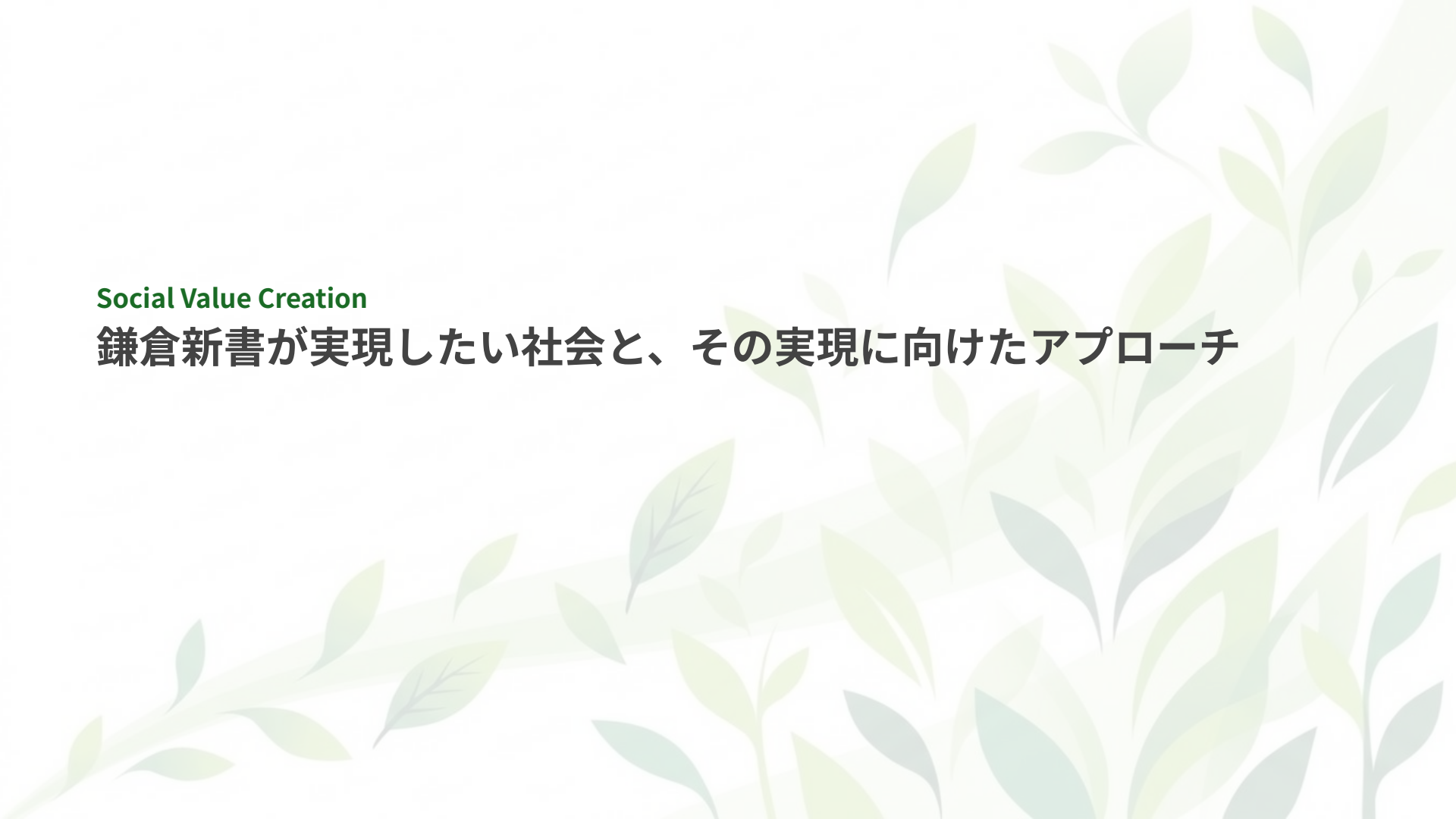


全国の自治体と協働し、多くの国民に必要な不可欠な終活情報をお届け
終活紹介・支援では全国の事業者を網羅。毎年4万件を超える成約を実現



* 2026年7月末時点 (葬儀場は2026年8月末時点) (掲載事業者数は十の位以降は切り捨て)

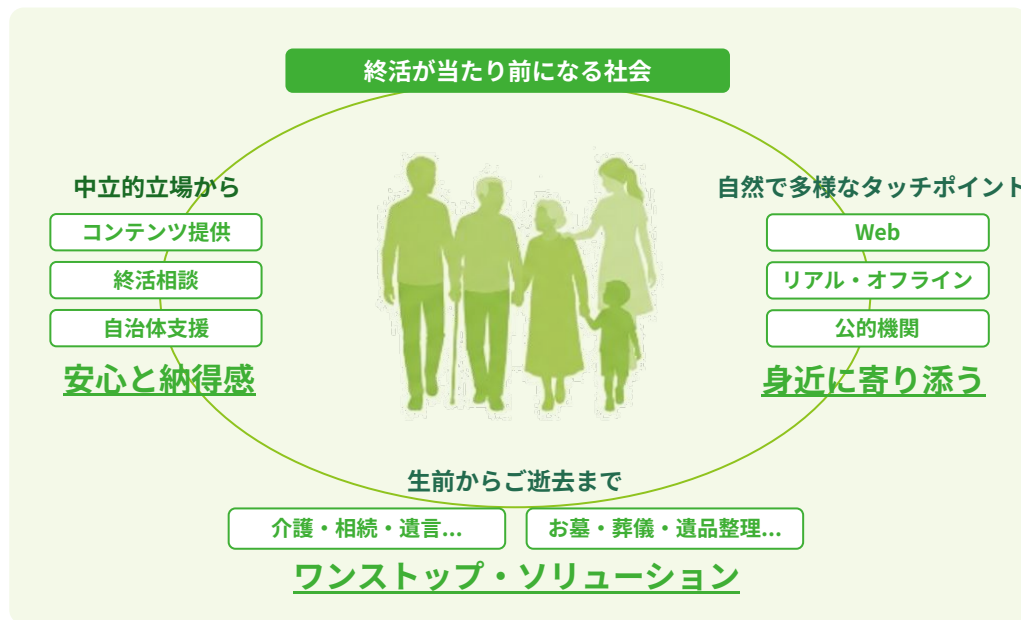
** 2026年度1月期の実績 (十の位以降は切り捨て)

The background of the slide features a stylized, light green illustration of various leaves and branches, creating a natural and organic feel. The leaves are of different shapes and sizes, some pointing upwards and others downwards, with soft, blended edges. The branches are thin and curvy, weaving through the leaves. The overall color palette is a range of light greens, from pale to a slightly darker shade, set against a white background.

Social Value Creation

鎌倉新書が実現したい社会と、その実現に向けたアプローチ

終活に関する「課題を解決する」及び「希望を実現する」ための インフラ(社会基盤)を全国に張り巡らせること



世界一の高齢社会であるにも関わらず日本で終活が普及しきれない大きな要因として「そもそも何をすべきか分からないこと (= 情報不足)」が挙げられます

相続、財産整理、葬儀・墓、介護など検討が多岐にわたる中で、信頼して相談できる相手が身近にいない面もあります

鎌倉新書では、中立的な立場から生前から死後まで、あらゆる終活領域での信頼できる情報提供に努めています

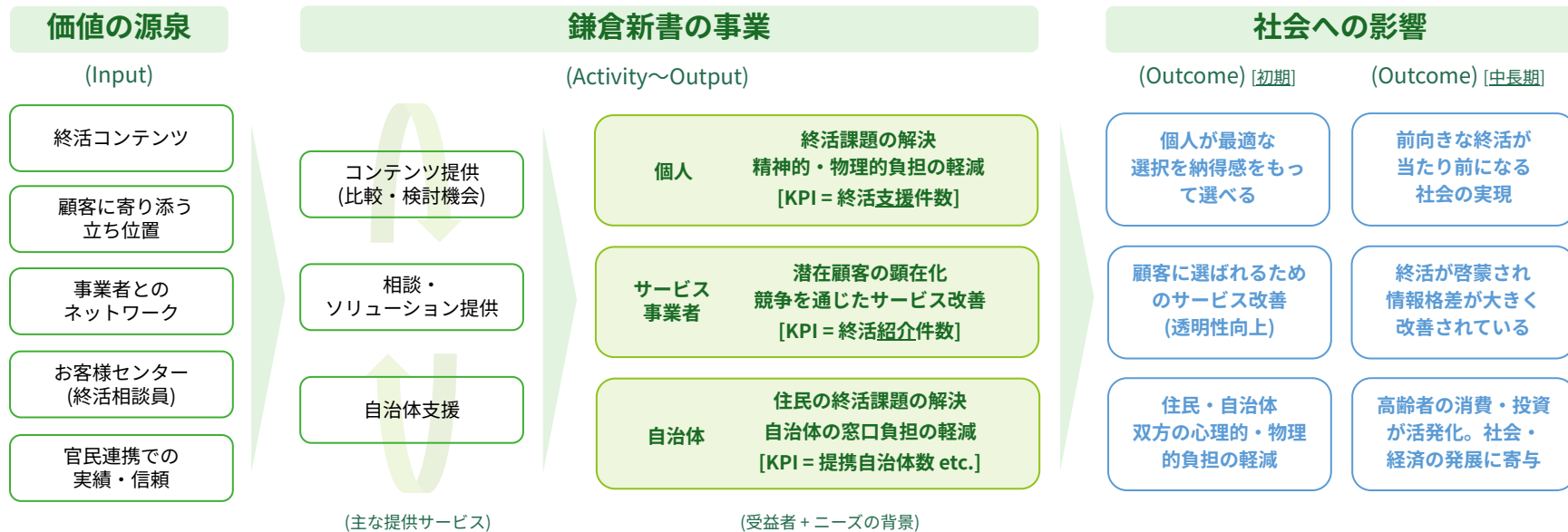
また、自治体との連携においては、エンディング・ノート等の配布を通じた網羅的な情報提供に加え、セミナー開催などを通じて啓蒙活動にも尽力しています

終活は自身の死と向き合う行為ですが、正しい知見があれば残りの人生を前向きに生きる活力になるはず

鎌倉新書は終活全般の普及・啓蒙に努めながら、終活が前向きな取り組みとして当たり前になる世の中を目指します

お客様の効果的で最適な判断の支援に向けて、包括的なアプローチで取り組む

①わかりやすい情報提供 ②お客様に寄り添うサービス提供 ③自治体と連携した社会課題の解決



社会的価値の創出に取り組む上で、事業成長とも密接に関連するKPIを定義

鎌倉新書のアプローチ

KPI (2026年1月期)

終活支援



- お墓・葬儀など供養領域から、介護・相続まで終活のワンストップソリューション
- それぞれの分野の専門事業者をネットワーク化、一部では自社でサービスを提供*
- 終活相談を通じて、お客様の事情に沿ったソリューションを提案



終活支援件数**

44,300件

クロスユース



- 単一プロダクトの利用での完結でなく、派生しやすい顧客ニーズに触れる
- 終活相談員の増員。オンライン・オフラインを交え終活相談を受ける体制を強化
- 各事業の顧客データを統合管理し、行動履歴から発生し得るニーズを推測

クロスユース数**

3,100件

自治体支援



- 終活メディア配布を通じて、特に生前・死後のやるべきことについて丁寧に解説
- 住民の『何をしたら良いかわからない』不安・ストレスを、自治体と共同で軽減
- 終活を啓蒙するセミナー開催など、自治体側のニーズ充足や事務負担軽減に貢献

提供自治体数*** メディア配布数**

543自治体

227万冊

*保険、不動産事業など

* 2026年1月期の実績 (十の位以降は切り捨て)

** 2026年7月末時点

社会的インパクト① 自治体への支援と共創

自治体と住民の双方に向けて、終活に関わる負担の軽減に努めます

死亡に伴う行政手続きは30種類以上に及ぶことも多く、住民と自治体職員の双方に大きな負担が生じています

解決する社会的ニーズ

 住民

「大切な人が亡くなった後の複雑な手続きや、生前の備えについて、どこに相談すればいいかわからない」

「身近な自治体と連携した信頼できる窓口がほしい」

 自治体

「高齢化や死亡者数の増加に伴い、介護やおくやみをはじめとしたさまざまな終活関連の相談や問い合わせが増え続けている」

「窓口の混雑を緩和しつつも、専門的人材・知見の活用で住民にもしっかり向き合える仕組みがほしい」

当社のソリューション例

自治体
向け支援

● 終活メディア提供

おくやみハンドブックやエンディングノートを自治体と協働発行
窓口や事前配布を通じて包括的な情報を無償で届けます

● おくやみコーナーの設置・運営受託

死後手続きをワンストップで行う「おくやみコーナー」の設置支援
や人材派遣などを実行。自治体の運営をサポートします

● おくやみ手続きナビ（WEB・DX支援）

ご遺族がPCやスマホから必要な手続きを簡単に抽出・確認できる専用ツールを運営。問い合わせのデジタル化を推進します

社会的インパクト① 自治体への支援と共創(続き)

支援先は500自治体を突破し、全国人口の約6割をカバーしています

おくやみハンドブックやエンディングノートの提供を通じて、終活に関わる啓蒙・包括的な情報提供に寄与

解決する社会的ニーズ

おくやみハンドブック
配布数*

132.3万部

2025年の
日本の死亡者数

158.9万人

エンディングノート
配布数*

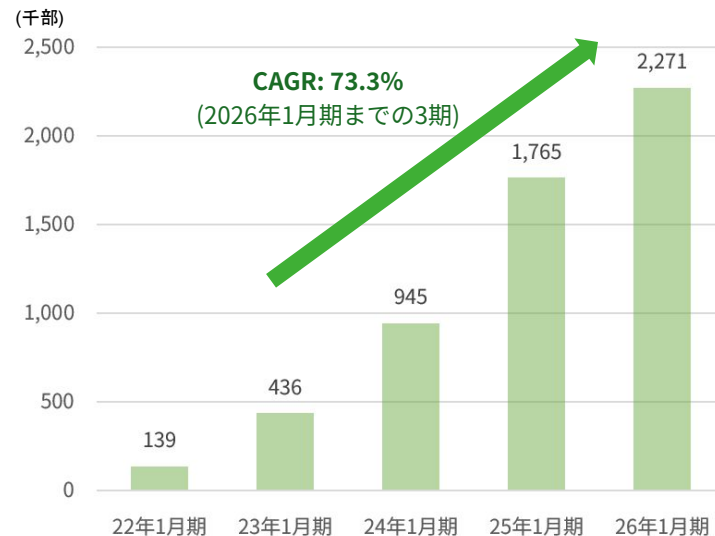
30.4万部

日本での死亡者数(158.9万人)に対する、当社の終活メディアの配布数の割合

- おくやみハンドブック: 83.2%
- エンディングノート: 19.1%

単純比較には留意すべき点もありますが、自治体での終活対応において、当社の終活メディア事業は住民・自治体の双方の負担の軽減に寄与しています

終活メディアの配布数の推移



メディアの客観的な立ち位置から、終活に関わる情報をワンストップで提供 事業者の比較・紹介にとどまらず、知識系コンテンツや口コミ情報等を含めて情報格差の解消に努めます

解決する社会的ニーズ



「自分に適した最適な終活情報を、信頼できる基準で選び、
適正な価格で納得して購入したい」

当社のソリューション例

情報
サポート

● 終活領域の全般にわたる情報掲載

お墓、葬儀、介護、相続を含め、多様な終活領域を網羅

● 見学・見積の徹底サポート

納得のいく選択ができるよう、詳細な比較データと検討の機会

● 相談員による専門的な対応

専門コールセンターの相談員が、事業者との間を取り持つ

お墓

当社サイトの事例

全国10,000以上の霊園を掲載する、
日本最大級のお墓メディア*

- 霊園・墓地の情報のほか、お墓の種類・関連費用など知識系のコンテンツ、口コミ情報が充実している
- 全国の霊園・墓地情報を多数掲載。お墓探しのプロである専門相談員が納得のお墓探しをサポートする、日本最大級のお墓サイト



類型相談件数：240万件

提携霊園：10,650ヶ所

口コミ：53,800超

社会的インパクト③ 終活相談員とクロスユース

経験豊富な終活相談員が、お客様の状況に鑑みた提案を実施

終活領域の専門家が、一生に数回しか向き合わない意思決定を、24時間365日の人的サポートで支える

解決する社会的ニーズ



「中立的な立場から、自分の気持ちや家族の状況を理解した上で、最後まで責任を持って伴走してほしい」

当社のソリューション例

高齢者・
ご家族向け
相談

● 中立的な終活相談員

特定の事業者には偏らず、お墓・葬儀から介護・相続まで全体を俯瞰して最適な設計を支援します

● お客様の心情に寄り添う相談窓口

経験豊富な相談員が、ご家族の人間関係やご自身のライフプランなどの深いお悩みに真摯に耳を傾けます

● わからない終活を最後まで

状況に応じて発生する「次」の問題に対する準備をご案内します

いい介護

ご利用者の声から

- 相談員の方が知識が豊富で少し我儘な条件を出してしまいましたが、快く検討し諦めず探してくださいました
- 真から相談に乗ってくださっている感がありました
- 他社からも連絡を頂きお話をしたのですが、こちらの様な手応えはありませんでした。お友達にもいい介護をお勧めしました

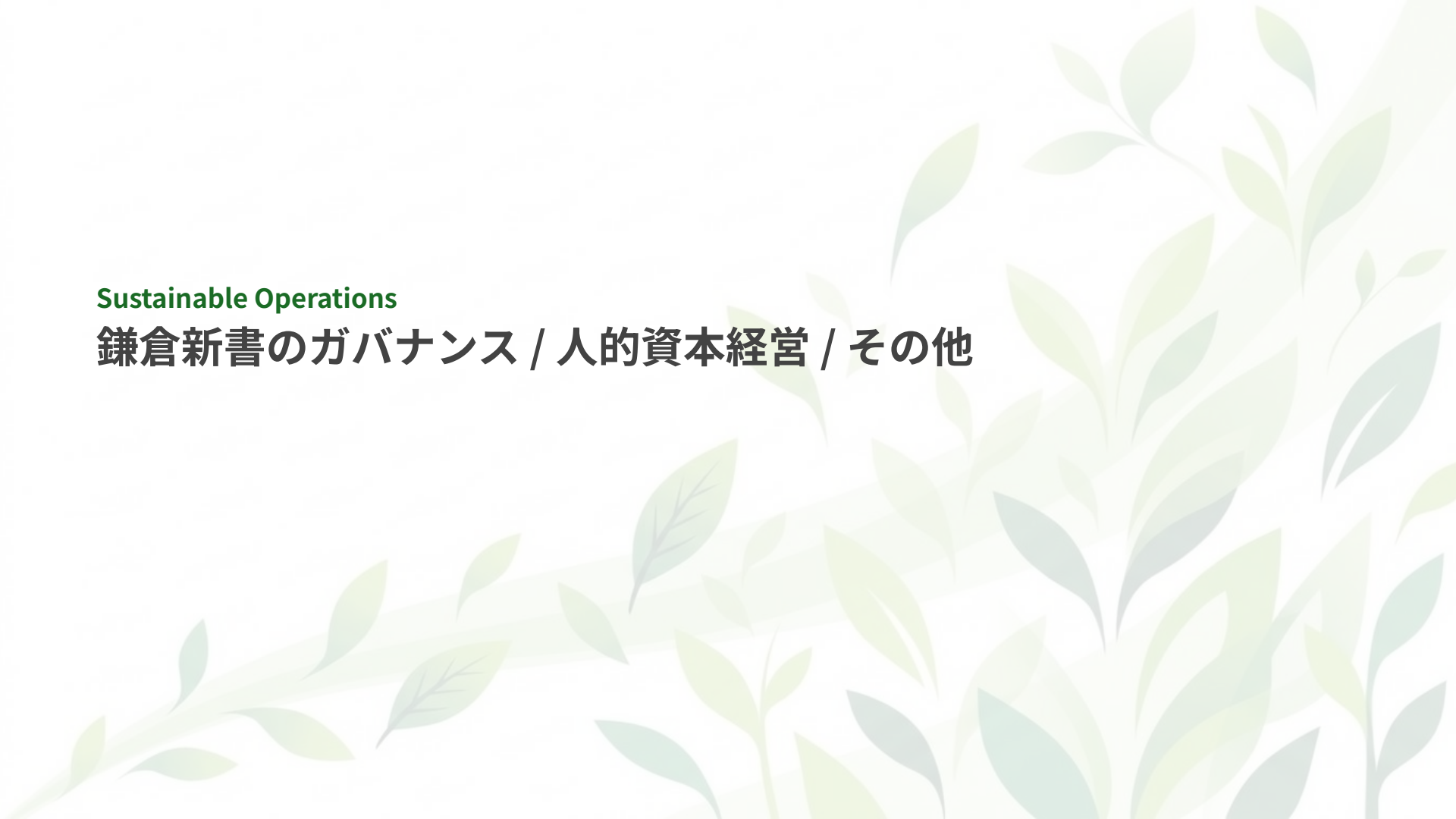
[2025年1月 女性]

いい葬儀

ご遺族様インタビューから

- どのように葬儀を進めていけばいいのかわからずに不安な気持ちで電話したのですが、親族のみの家族葬で通夜の無い一日葬がいいのではないかと自分にあった葬儀形態を提案いただけました
- その後、複数の葬儀社を紹介してもらい、すぐにお電話をもらったのでとても安心感がありました

[2023年12月 Y.K様]

The background of the slide features a stylized, light green illustration of various leaves and branches, creating a natural and organic feel. The leaves are of different shapes and sizes, some pointing upwards and others downwards, with soft shading to give them a three-dimensional appearance. The branches are thin and elegant, weaving through the leaves.

Sustainable Operations

鎌倉新書のガバナンス / 人的資本経営 / その他

経営の透明性、および専門性・実効性を軸にした監督体制

透明性の担保

独立社外取締役の比率

71.4%

取締役会全体7名のうち、過半数を大きく上回る5名が社外取締役で構成。透明性の高い監督体制を担保しています

社外取締役：5名（うち監査等委員3名）

社内取締役：2名

取締役の女性比率

28.6%

（東証プライムの同比率は18.4%）

指名報酬委員会

委員会はCOO、社外取締役2名（過半数）の3名で構成
委員長は独立社外取締役

専門性と実効性の担保

取締役会の実効性向上

100.0%

（取締役会の出席率*）

取締役会出席率: 極めて高い水準を維持

実質的な審議を支える「プレ取締役会」

原則、取締役会の2営業日前に事前の説明と意見交換を実施。

社外役員も含めた取締役会の実効性向上を担保しています

専門性の分散

社外取締役は全員、豊富な実務・経営経験、
または専門知識（公認会計士・弁護士など）を有し、
多角的な視点から議論を尽くします

従業員のワークエンゲージメント向上を目的とした施策を展開

「明るく前向きに働ける環境づくり」と「多様性とインクルージョン」を基本方針に掲げています

鎌倉新書のミッション、実現したい
社会の実現に共感してくれるメンバーが

358人

在籍しています

(= 連結従業員数*)

男女比率

男性 **50.1%** / 女性 **49.9%**

働き方、休暇の取得**

育休消化率

男性 **100%** 女
性 **100%**

有給消化率

86.8%

平均残業時間

12.25時間

時流に即したエンゲージメント強化**

年間平均昇給率

7.1%

世の中の賃金動向や物価動向を勘案
当社では実質賃金の上昇を重視しています

ジョブポスティング制度

8件 (前年比2倍)

従業員がキャリアプランを意識して、
チャレンジしたいプロジェクトに応募する
ことを推奨しています

*2026年1月末時点 (契約社員、パート、アルバイト含む。フリーランス、業務委託を除く)

** 2026年1月期の実績

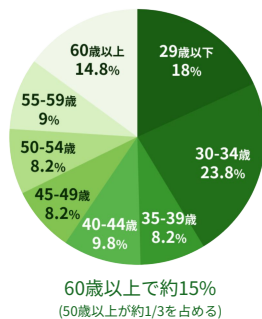
シニア人材の積極採用を通じて、高齢者がより良く生きる社会の実現に貢献

「親の介護問題」が社会課題化する中で、終活インフラ企業として最先端の福利厚生制度を導入しています

シニア人材の積極採用

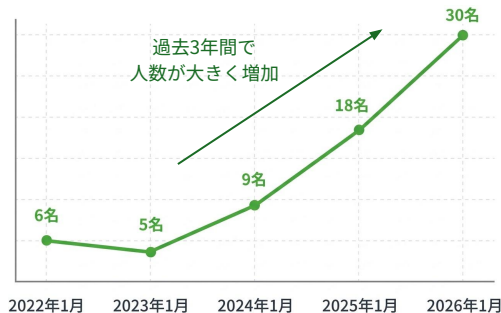
特に50代～60代は親の終活局面を迎えるピーク世代であり、自身の老後にも具体的に意識する世代です

年代別年間採用人数*



60歳以上の従業員数の推移

(契約社員・パートタイム社員含む)



第二のワークライフとして、社会貢献や地元活性化に関わる仕事に
従事したいシニア世代に、やりがいを実感しながら活躍できる場を提供

かましんベネフィッツ (抜粋)

従業員が心身共に健全な状態で業務に臨むために、バランスのとれた勤務制度並びに福利厚生制度を整えることが重要と考えます

介護休暇

20日

法定基準の4倍の年間
20日を付与

介護応援手当

2.5万円

要介護の家族
一人につき支給

介護施設入居サポート

20万円

当社グループの介護事業サービスを利用できる制度
入居時には入居サポート一時金として20万円を支給

終活・供養サポート

20%

葬儀費の20%、海洋散骨の割引15%相当の手当・割引、
または相続手続き費用への最大5万円の手当 etc.

終活インフラ企業だからこそ、従業員の仕事と終活の両立支援の
取り組みにおいても先端企業でありたいという想い

第三者機関による認証を受領。客観的視点も取り入れて福利厚生の向上に努めます

「福利厚生推進法人」に認証

福利厚生表彰・認証制度「ハタラクエール2026」において、
福利厚生の充実に取り組む企業として「福利厚生推進法人」に認証されました

「ハタラクエール」とは

ハタラクエールは厚生労働省後援の福利厚生表彰・認証制度であり、福利厚生の一層の普及・発展を目的に、優れた福利厚生を実施する法人、およびこれから福利厚生の充実を図ろうとする意欲ある法人を表彰・認証しています



当社の評価ポイント

特に「現状把握の軸」で高い評価をいただきました。これは、福利厚生を単なる制度に留めず、人材採用や定着、労働生産性の向上、そして従業員のモチベーション引き上げといった経営課題を解決するための重要な手段として、広くかつ強く意識している姿勢が認められたものです

福利厚生に対する当社の思い

当社は「私たちは明るく前向きな社会を実現するため、人々が悔いのない人生を生きるためのお手伝いをします」というミッションのもと、「終活インフラ」の構築を合言葉に企業活動を行っています

そして、お客様の人生の節目をサポートするためには、何よりもまず社員自身が仕事に対して前向きで充実しており、心身ともに健康であることが不可欠であると考えています。当社は、ライフステージに合わせた柔軟な制度拡充を推進し、社員が安心して挑戦できる環境を整えることで、最高のサービス提供と企業価値の向上に努めてまいります

終活サービス特有の留意事項に配慮した、管理・運営体制

高い緊急性、機微性の高い情報など、終活特有の事情に配慮した信頼に足るプラットフォームを構築しています



個人情報保護の徹底

センシティブデータの安全管理

家族構成、資産状況、生前整理の意向など、終活に関わる極めてプライベートな情報を守ることが重要です

厳格な情報管理プロセスとセキュリティ体制を運用します

(2023年11月: プライバシーマークを取得)



迅速なクレーム対応体制

消費者トラブルの未然防止と解決

葬儀やお墓の契約など、緊急かつ感情的になりやすい取引での消費者トラブルに対し、専門の相談窓口を設置

不当な契約からお客様を守り、早期解決を図ります



提携事業者のスクリーニング

悪質事業者の排除と品質担保

厳格な利用規約を作成し、当該規約に基づいて取引が実行可能な事業者のみと取引を行っている

当該規約には悪質な行為を禁止する旨、違反があった場合は取引を停止する旨なども記載されている

Key Takeaways

総評と今後の課題について



総評と今後の課題について

今般、初のインパクトレポートの発行となりました。当社が提供する終活関連サービスの社会的意義は、総じて所与のものとして認識しておりましたが、それらが「どのような社会環境のもと」「どのような経路」で、そして具体的に「どのようなインパクトを持ち得るのか」という視点から再考することで、解像度を高める良い契機となりました

高齢社会がさらに進展していく中で、終活の領域で自他ともに認めるNo.1企業として、当社はその役割を十二分に理解した上で、共感する仲間と手を携えて担うべき社会的責任を全うしてまいります。同時に投資家のみなさまからの期待にも応える努力を続けてまいります

今回、社会的インパクト指標として設定したKPI (終活支援件数、クロスユース数、支援自治体数 etc.)は、奇しくも中期経営計画において最重要指標として位置づけているものと同一となりました。当社サービスへの需要は、高齢化の進展が生み出す社会的ニーズと強く結びついています。引き続きお客様への誠意あるサービス提供はもちろんのこと、新たなソリューションの開発なども交えながら、社会的インパクト創出と企業価値向上の両立に努めてまいります

今後は以下の点に関連して本レポートの改善を検討し、ステークホルダーの皆さまからの更なる信頼向上に努めてまいります

- 社会的な意義について、より踏み込んだ計量的分析 (社会的な経済的便益、又は効率性向上などへの寄与を数値化)
- 社会的インパクトの視点からのアンケート調査の実施 (当社サービスに関わる定性・定量面での客観的示唆を明示)
- ガバナンス、人的資本経営などに関わる、中長期的な目標の設定・開示

Appendix
添付資料



会社概要

会社名	株式会社鎌倉新書
代表者名	代表取締役会長CEO 清水 祐孝 代表取締役社長COO 小林 史生
設立日	1984年4月17日
資本金	16億7,186万円
所在地	本社：東京都中央区京橋 二丁目14番 1 号 兼松ビルディング 3 階
従業員数	358名
事業内容	ITメディア・サービス事業 マッチングプラットフォームとなるポータルサイト運営を中心とした、終活に関わる情報サービスの提供 自治体に対する高齢者領域での住民サービスの支援



終活インフラについて

わが国の高齢社会において生じる、さまざまな課題解決のための基盤をつくりあげることで人びとの最大幸福を実現する

「終活インフラ」について

この日本の豊かなインフラは、わたしたちの先輩たちが多くの苦難や犠牲の上につくりあげたもので、これを享受しながら企業の成長が成り立っているのです。そこまで考えれば、わたしたちがやるべき役割が見えてきます。それは次の世代のための基盤(インフラ)づくりであります

当社が「終活インフラ」を標榜するのは、こうした考えが背景にあります。高齢社会の中で人びとが幸福に生きること、そしてその基盤をつくりあげること。先輩たちの築いてくれたインフラおかげで成長できているのだから、後輩たちのために基盤(インフラ)を築くことは義務ですらある、そのように当社は考えます

「終活」とは 死に備えることではなく、いずれ必ずやってくる死を意識し、人びとが自らや家族の将来を考えそこに必要な手立てを講じること。そのことで残された人生を充実させ幸福に生きることです。「終活」とは「ウェルビーイング」とほぼ同義で幸福に生きること私たちは定義しています

「インフラ」とは インフラストラクチャーの略で、社会や経済あるいは生活が拠って立つ基盤、といった意味合いで一般的に使われている用語です。当社がこれまで成長して来られたのは、企業努力だけでそうなったわけではなく、日本には豊かな経済、社会基盤があり、それを享受できたからこそ今日があります。自分たちの力だけでやっていけているなんて己惚れてはいません。世界を見渡すとそうした基盤が整っていない国や地域もたくさんあるわけで、企業の成長は豊かな社会基盤があってこそ実現できるものであります

免責事項

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません
市場環境や業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります
実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください